

清流の息吹を訪ねて

三者の巴戦？

くアユとボウズハゼの不思議な関係く

このコーナーは、市内山ノ内で釣りに関するアドバイスなどを行う(株)フィッシュナビの代表で、「魚の専門家」の八鳥洋二さんからご寄稿いただいています。

神戸川でアユを観察していると、「ボウズハゼ」もセットで観察する事ができます。今回は、個性派キャラのボウズハゼ、アユとの不思議な関係についてお話しします。

ボウズハゼとは、清流と海(沿岸)を共にする回遊性のハゼの仲間。大きさは人さし指ほどでハゼにしては長細い体つきをしており、その姿はまるでトラ柄ドジョウのようです。

特徴的なのはこのマヌケな顔！箱



土俵上で繰り広げられる巴戦？
苔岩でアユ同士が縄張り争いをする
中、のんびり苔を食べるボウズハゼ

型の四角い顔に、下向きにある口は掃除機みたいで全てが面白すぎます。特徴的なパーツが偶然にコラボし、このような顔に仕上がっているのでしょうか。岩についた苔が大好物なので、苔をそぎ落とすのに適した形が「コレ」なのです。

7月3日号で盛夏のアユの縄張り争いにふれましたが、ボウズハゼも縄張り意識が非常に強く、仲間同士でのケンカもしばしば。生活史だけでなく性格までアユと似ています。

しかし、同じ生息域で暮らし、同じ苔を食べているのに一切ケンカをしない…何とも不思議な関係です。

因みに神戸川上流(西鎌倉駅前)に高さ1m程の堰堤があり、実質ここが魚止めです。アユ達の遡上はここまですが、ボウズハゼには吸盤状の腹ビレがあり、垂直な滝でも登れるため、源流域でも観察できます。